

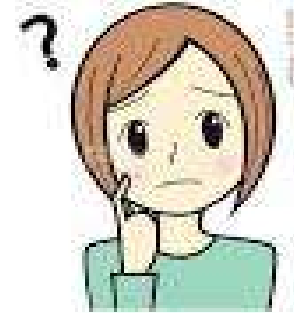
# TEAM



## 問題行動への対応ver.2021

子どもの行動を観察し、対話によって  
これからのことを考える行動コンサルテーション

# 確認



- その行為は本当に問題ですか？
- その行為は、誰にとって問題ですか？
- その行為は障害特性ではありませんか？
- 今の発達段階でできますか？

すぐに問題と決めつけず、冷静にお子さんを見ましょう

# 1. 問題行動を特定化する

- 「困っていることは何ですか？」
- 解説
  1. 問題行動を一つに限定すること
    - 優先順位をつける、解決できそうなもの、今すぐ対応すべきことなど
  2. 問題行動を具体化すること
    - 「それは具体的にはどういうことですか？」
    - 機嫌が悪くなる → 怒って手を出す
    - わがまま → 自分でやらずにだだをこねる

# 事例(レン)

- レン(仮名)は小3の男児。大変元気がよく、みんなと一緒に体を動かすことが大好き
- しかし、ちょっとしたことでかっとなり、暴言や暴力行為が見られる
- そのつど注意をして謝ってはくれるが、また同じことの繰り返し
- 昨日もサッカーをしているときにミスをちょっと指摘されただけで、ケンカ騒ぎに
- みんなはあきれてレンをチームから外してしまいそう……

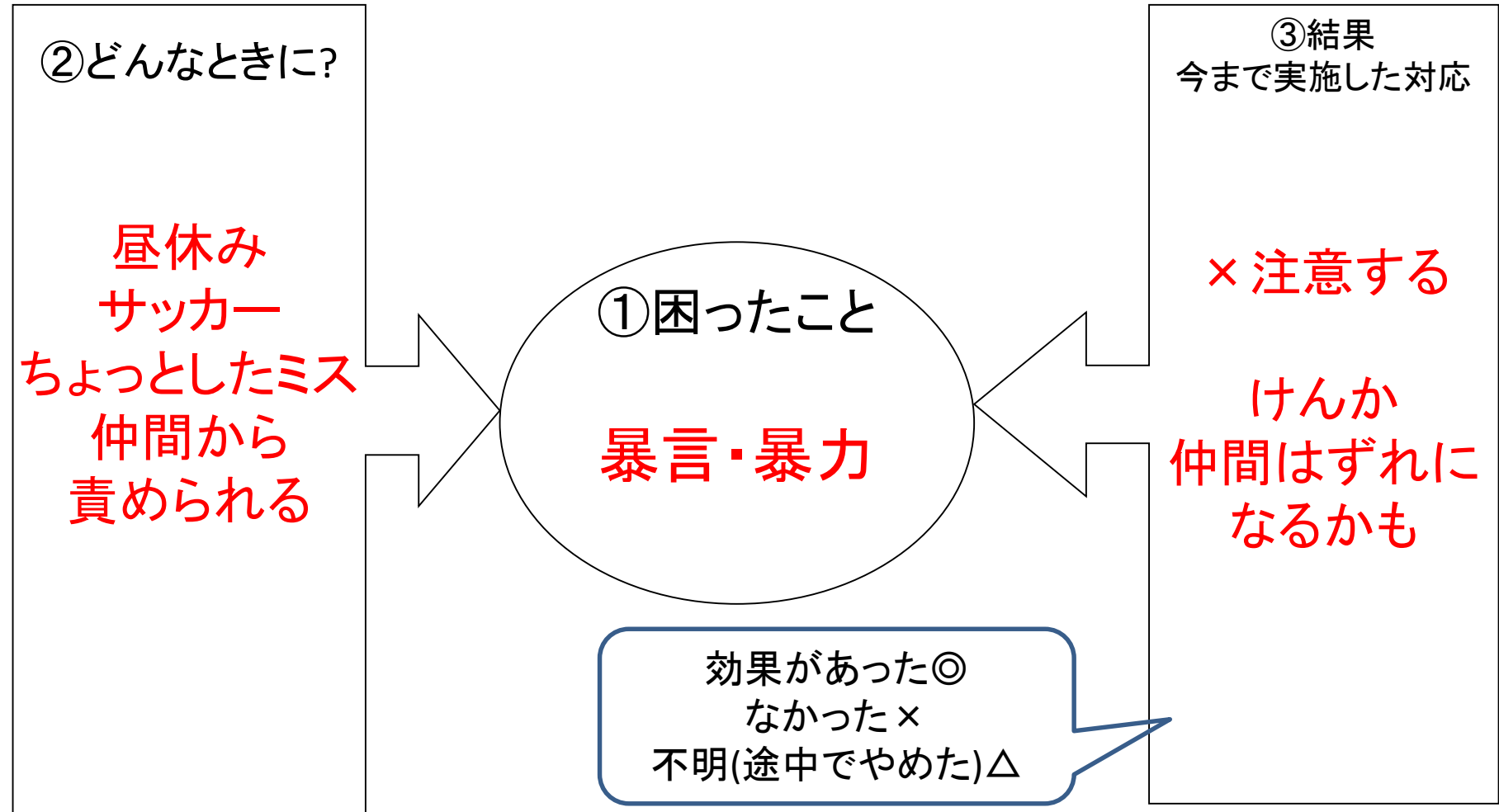
## 2. 状況の把握

- 「その問題行動は、どんなときに起こりますか？」
- 解説
  1. 生活場面、時間帯、教科？
  2. 状況、流れ？
    - 相手がいいものを持っている、ゲームで負けそう
  3. 相手？
  4. きっかけ、ことば
    - 気になる一言

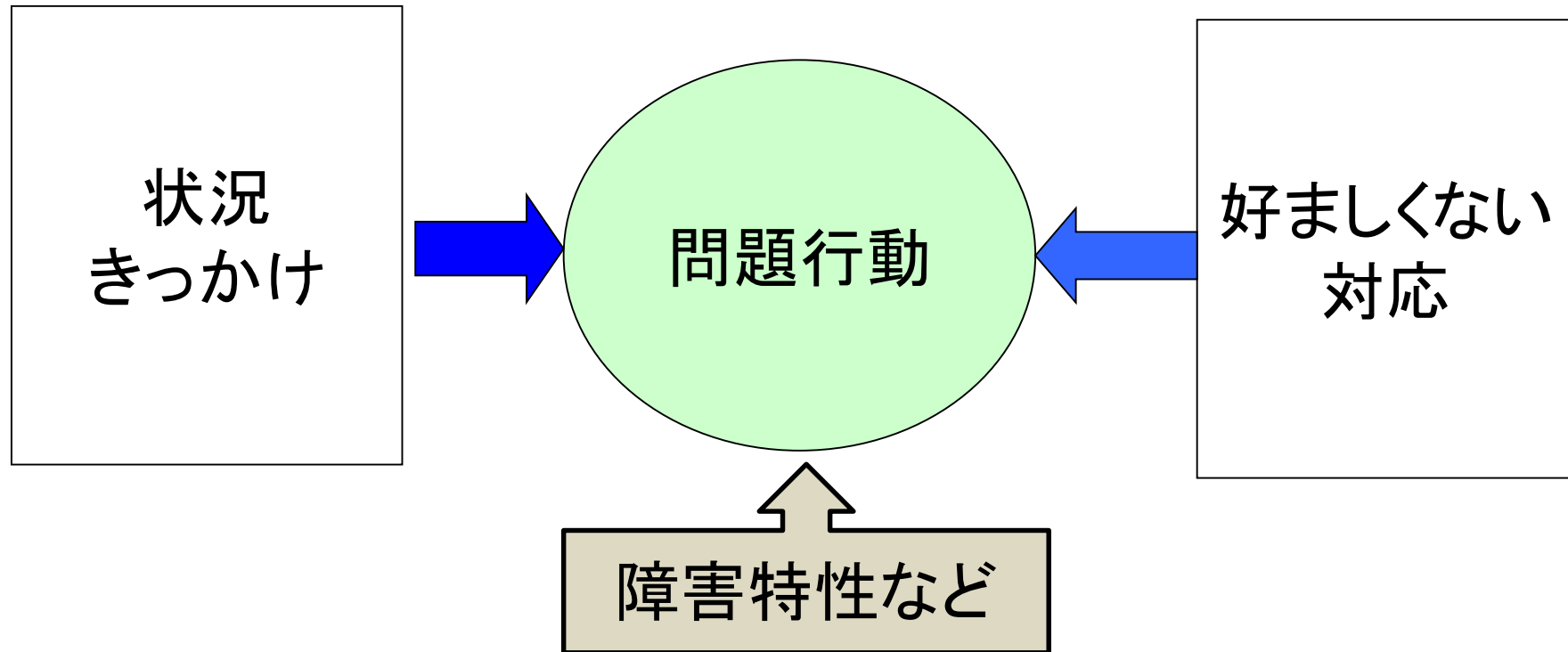
### 3. 対応と結果

- 「その問題行動に対し、どう対応しましたか？」
  - 対応したこと
    - 叱る、無視、注目
    - 子どもたちの反応
- 「その結果は？」
  - ますますひどくなった(×)
  - 変わらない(△)
  - やめた、改善が見られる(○)

# 問題の分析



# 問題行動の分析



原因追及(だからだめなんだ) < 事実の確認(現実を知る)  
価値付け(注意すべき) < 事実の確認(現実を知る)

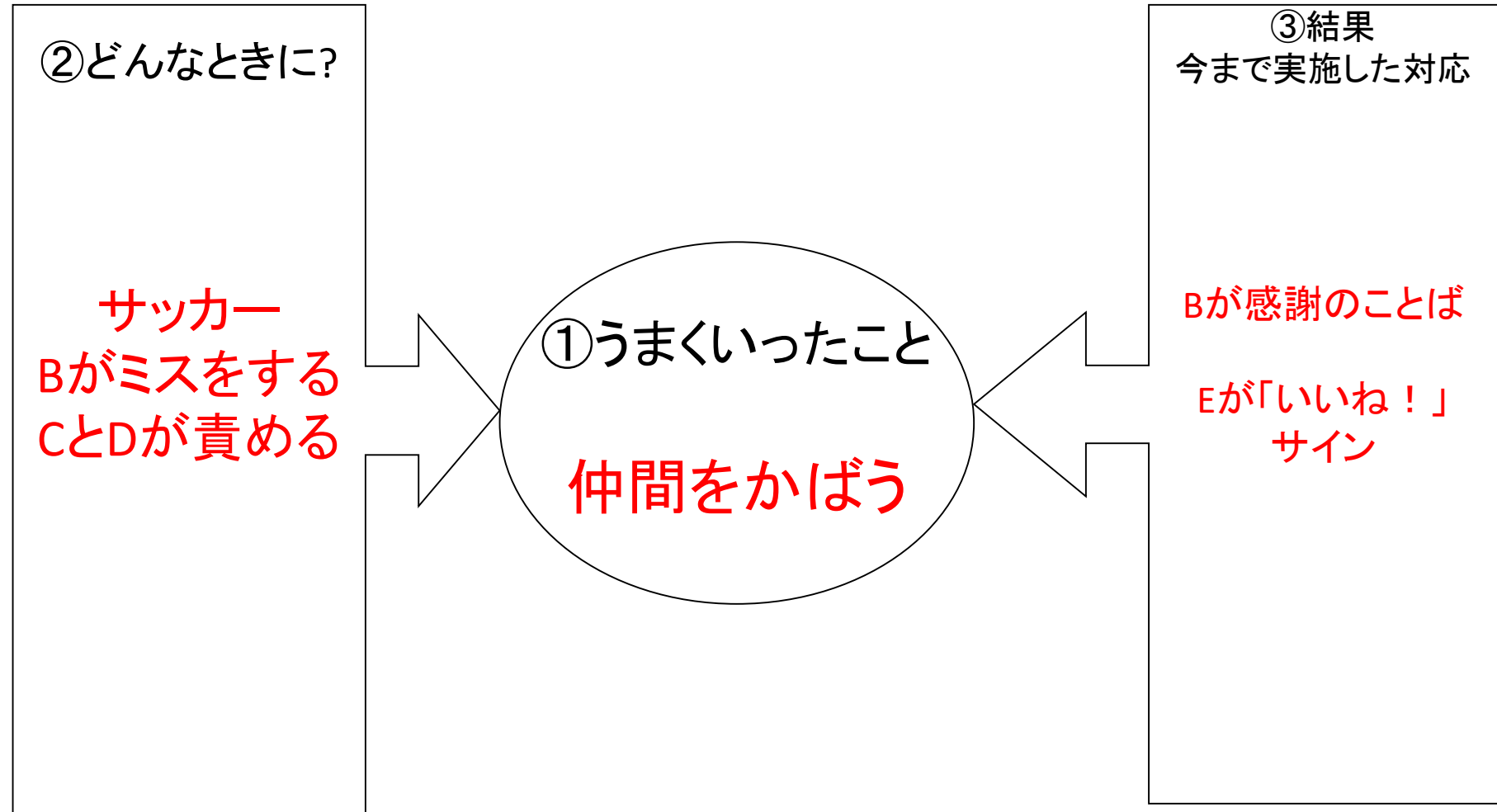




## ここでチェック

- 問題行動は具体的ですか？
  - 観察できる、再現できる、記録できる
- 問題行動につながる背景が複数書かれていますか？
  - 場面、きっかけ、科目、人…
- 問題行動に対応した結果が明確ですか？
  - 教師の対応、周囲の反応、その結果

# 参考：うまくいったことの分析



自分より上手ではない子には味方になってあげる  
その態度を認めてくれる仲間がいる



# 行動支援計画の作成

代替行動分化強化  
先行条件の工夫  
強化

# 1. 子どもの気持ちを推測する

- 「その問題行動をしているとき、その子はどんな気持ちでしょうか？」
- 解説：考えられる気持ち
  - 注目：注目されたい、認められたい
  - 要求：何か欲しい(注目以外)
  - 逃避：嫌だ、やめたい、逃れたい
  - 自己刺激：ヒマ

## 2. 望ましい態度や行為をきめる

- 「子どもに、どうなって欲しいですか？」、「何をして欲しいですか？」、「どういう言い方が理想ですか？」
- 解説
  - 子どもの気持ちを考慮し、こうなって欲しいという理想を考えます
  - 具体的に！

## 2-2 できる？ できない？

「『2』で、きめた行為は、明日にでも  
(来週中に)できそうですか？」

### 3. ギリギリ許せる行為

- (できない場合)「ギリギリ許せる行為や程度は？」、「どこまでなら、先生・子どもたちは受け入れられますか？」、「何とかできそうな行為は何ですか？」
- 解説

望ましい行動:しななければならないこと

ギリギリ許せる行為:子どもが無理なくできそうなこと

問題行動より少しでもマシな行動を伸ばして問題行動減少



## ここでチェック(2)

1. 子どもの気持ちに基づいて目標を設定しましたか？
  - 気持ちを別の表現(行動)に変える
2. その目標は、子どものためになる目標ですか？
  - 大人の都合できめてはいないか
3. 目標(望ましい、ギリギリ許せる)は、達成可能ですか？
  - 明日にでもできる？



## 4. 今の状況は変えられる？

- 「問題が起きている状況、何か変えられることはありますか？」
- 解説
  - 変えられるものは変えてみましょう。
  - 変えられないものは受け入れましょう
  - つまり、「問題行動」という良くない流れを作らない工夫

## 4-2 望ましい行為ができるために

- 「次のことは、実施可能ですか？」
- 選択肢
  1. 本人と話し合う: 分析したことをわかりやすく
  2. ルールや約束を確認する: できること、してはいけないこと
  3. 望ましい行為をされるといいことがある: こどもにとっていいこと、うれしいことを知らせる
  4. 望ましい行為を練習する: 一対一で、繰り返し、遊び感覚で

うまくいった経験、情報、他の人の意見など、  
使えるものを集めてみましょう

## 5. 望ましい結果に何をする？

- 「どんな褒めことばをかけますか？」、「何か特典を与えますか？」、「シールやスタンプ、ポイントは？」



- 解説
  - 子どもが喜ぶ対応
  - 問題を起こすより、子どもにとってお得な対応
  - ほめことばは具体的な台詞を

## 6. ギリギリ許せる行為への対応

- 「ギリギリ許せる状態には、どう対応しますか？」
- 解説
  - 子どもが満足する対応：無視？ ことば掛け(どんなことば？)
  - 「望ましい行動」の場合より控えめに。やり過ぎないこと
  - ほめるより「認める」

①子どもの気持ち 悔しい、言われたくない、ちゃんとやればよかった

| ④事前の対応                                     | 目標                                  | 事後の対応  |
|--|-------------------------------------|--|
| <p>先生がメンバーに助言</p> <p>先生と約束<br/>メンバーと約束</p> | <p>②望ましい行為</p> <p>「ごめん、つぎがんばる！」</p> | <p>⑤</p> <p>仲間から「ドンマイ」<br/>こらえたことを賞賛<br/>父も褒める</p> |
| <p>サッカーの練習<br/>お気に入りの選手の<br/>プレイを見る</p>    | <p>⑤と⑦は、どちらが魅力的？</p>                | <p>こらえたこと 賞賛</p>                                   |
|  | <p>⑤と⑥は、すぐに手に入る？</p>                | <p>解消？<br/>「めみる！」(スカッとした)</p>                      |



# トークンシステム

- 約束を守ったりきめられた活動をするポイントがもらえる
  - シール、スタンプなど
- ポイントをためると数に応じたごほうびや権利がもらえる
  - キャラクターシール、カード、ゲーム30分など
- ものを与え、できた(守れた)ことをしっかりほめること

目の前の楽な行為に逃れる → トークンですばやく褒美(褒める)

# 7. 問題行動にできること

- 「問題行動に対して、次のことはできますか？」
- 選択肢
  - 見ないようにする
  - ルールや約束を繰り返す
  - 場所を変えて話す(タイムアウト)
    - ただ聞くだけ
    - ルールの確認
    - 誰が対応する？
  - 問題を起こしていないことを評価する
  - うまくいっている対応は続ける

冷静に子どもと向き合う。感情的にならず、「深呼吸」



## ここでチェック(3)

1. 実施可能な事前の工夫が書かれていますか？
2. 望ましい行動、ギリギリ許せる行動それぞれに、子どもが喜ぶ対応が書かれていますか？
3. 問題行動への対応は、どのように変えましたか？
4. 増やす行動、減らす行動は何ですか？



## 8. 対応する人をきめる

- 「事前の対応、誰が担当しますか？」
  - ルール確認、話し合い
  - 支援教材の作成・提示
  - ソーシャルスキルトレーニングなどの練習・訓練
- 「事後の対応、誰が担当しますか？」
  - 褒める、認める
  - ポイントの提供、ご褒美の提供
  - タイムアウトなど、問題行動への対応

それぞれの対応の最後(そば)に書き込む

①子どもの気持ち 悔しい、言われたくない、ちゃんとやればよかった

| ④事前の対応  | 目標  | 事後の対応   |
|---|---|---|
| <p>先生がメンバーに助言</p> <p>先生と約束<br/>メンバーと約束</p>      | <p>②望ましい行為<br/>「ごめん、つぎがんばる！」</p>                        | <p>⑤<br/>仲間から「ドンマイ」<br/>こらえたことを賞賛(先生)<br/>父も褒める</p> |
| <p>サッカーの練習<br/>お気に入りの選手の<br/>プレイを見る<br/>(父)</p> | <p>③ギリギリ許せる行為<br/>「ちくしょう！」<br/>土を蹴る、ゴールポストを<br/>たたく</p> | <p>⑥<br/>こらえたことを賞賛(先生)</p>                          |
|   | <p>問題行動<br/><br/>暴言・暴力</p>                              | <p>⑦<br/>ルールを確認<br/>イエローカード<br/>(見回りの先生)</p>        |

# 記録と評価に基づく指導

- 問題行動の「何を」減らすのか？

代わりに「何を」増やすのか？

- どのように記録するのか？

無理なく手軽に、継続できる記録の工夫

- いつ、誰が、その記録を分析するのか？

支援会議(集まれるメンバーで)

科学に基づく対応 = 結果に基づく実践

## 9. 話し合い

1. 増やす行動、減らす行動はどうなりましたか？
  - 記録から傾向を分析。エピソードも
2. 対応は変える？変えない？
  - 変えるとしたら増やすのか、減らすのか(やめるのか)
3. 情報の共有
  - 本人、保護者への伝え方

今後、どういう機会を利用して(設定して)話し合うかきめましょう！

# まとめ



- 子どもの様子と今までのかかわりを見直す

問題が起こる前の様子、起きた後の対応

- 「～してはいけません」より、「○○しましょう」

望ましい行動、ギリギリ許せる行動を教える

- 発達障害特性？ 知的な遅れ？

検査や情報から、個に応じた指導

- 子どもは自己表現が未熟です

ひとりで悩まず、関係者がチームで話し合うこと

# まとめ(2)



- ABAはケース会議や職員研修に使える

困難事例への対応や指導力の向上

- ABAは保護者との相談に使える

ABC分析で保護者の気づきを促す

- ABAは子どもの生活の質の向上に貢献する

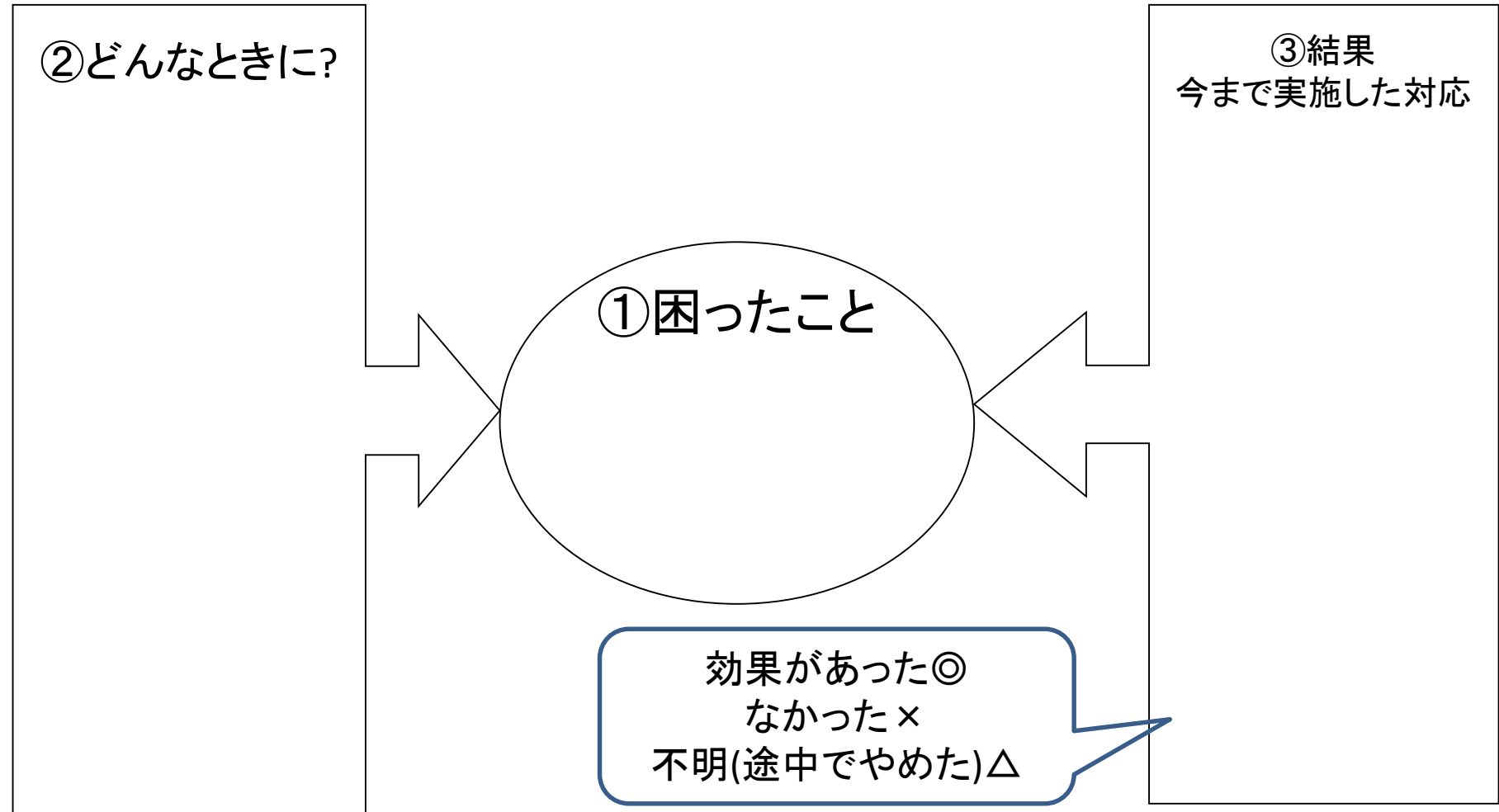
子どもにとってためになることを伸ばす

- 日常の中でABAの意識を持ち、活用を

身近な事例でABAを使い、深めましょう

# 用紙

# 問題の分析





# 行動支援計画 (個別の指導計画)

| ①子どもの気持ち |            |       |
|----------|------------|-------|
| ④事前の対応   | 目標         | 事後の対応 |
|          | ②望ましい行為    | ⑤     |
|          | ③ギリギリ許せる行為 | ⑥     |
|          | 問題行動       | ⑦     |